# これまでを振り返って

## 厚生労働省に入省した理由

学生時代は、何となくという思いで数学科に在席していました。そんな思いでいた当時の自分としては、将来の仕事なんて、同じように何となく金融系か公務員かといったふわりとしたイメージしかなく、改めてどうして厚生労働省だったのかと自分に問いただして考えてみると、答えに窮してしまいます。大学にある就職案内の窓口に、厚生労働省の採用案内パンフレットをたまたま手に取ったからかもしれません（笑）。

思えば、今も昔も厚生労働省（昔は厚生省と労働省ですが。）という単語は新聞やテレビ等でほぼ毎日見る言葉です。当時の私は、内容はよく分からずとも、何か物事の発端がそこにあるような気がしていました。実際には、発端となるような出来事があるわけではないと分かるのですが、やはり人が生きていく中で大きく関わる役所なのだと、ここで働き始めてから思い知ることになりました。

ただ、採用面接のときは、それっぽい動機を話していたような気もするのですが、今思えば、先述した何となくの気持ちで厚生労働省の門を叩いたのだろうと考えています。

## 現在の仕事

現在、私は、社会・援護局にある障害保健福祉部というところにいます。名前から想像できるとおり、この部署は、障害者に関わる政策を担当するところです。もう少し詳しくいうと、障害のある方が地域で生き生きと暮らせる社会の実現を目指し、また、自宅での介護や就労の支援等の障害福祉サービスや、精神医療の提供を推進しているところです。

このような部署の中で、どのような仕事をするかというと、役所内には様々なデータがあり、そのデータを元に、集計した数値がどのような性質のものなのか、どのような構造になっているのか、今後の予測はどうなるのかといったことを分析しています。統計的な視点からどのようにデータを読むのかといった職場内でのサポートも行っています。

実は私自身、障害福祉というのは、これまでの経験では全く知らなかった世界であり、配属された当初は不安がありました。ですが、実際に制度を勉強しつつ、データを集計したりグラフを作ったりしながら分析していると、ふとあるとき、見えていなかった視界が開けるように視野が広がり、ああ、なるほどと、妙に納得するようになります。そして、そのときは仕事のやりがいを感じるというか、爽快感に浸ります。

というような経験談はともかく、要はとてもやりがいのある仕事なのだと思ってもらえればと思います。

## これまでを振り返って

これまでを振り返ってと大きく構えましたが、就職して数年で出るであろう感想とそれほど変わりません。それは、学ぶことが多いということです。

毎日、たくさんの情報が入ってきて、また、毎年多くの法律改正などがあり、同じような仕事であっても、同じようにやればいいかというと、そういうわけでもなく、日々学びながら、周りの状況や自分の置かれている立ち位置を確認しながら、仕事を進めていかないといけないと感じています。これは、学生時代の勉強であっても、社会人になってからの仕事であっても、変わらないのだと思います。

## おわりに

厚生労働省と一括りにいっても様々な部署があり、また、出向や留学等もあります。働いている人も様々で、内向的な人も外向的な人もいます。

厚生労働省の数理職員を目指そうと考える皆さんは不安に感じることもあるかと思いますが、いざ入ってみると、気軽に相談でき、たくさんのサポートもあり、働きやすい職場だと実感できると思います。

**社会・援護局障害保健福祉部**
**企画課**
**データ解析専門官**　**古屋 裕文**

**≪経歴≫**
大臣官房統計情報部
年金局事業企画課調査室
職業安定局総務課
保険局調査課
老健局総務課　等を経て現職